

■島津久光 藩政家。子忠義が藩主となり実権、尊攘派藩士を弾圧し、一橋慶喜を担ぎ出して公武合体派の中心に。

しまづひさみつ

杉田玄白没・1817＝ 薩摩藩主島津斉興の三男に生まれる。母は側室由羅、斉彬の異母弟、忠義の父。

水野忠成老中1818＝ 1歳：種子島領主の養子となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1826＝ 9歳：

幼時より学問を好み、和漢の書籍にくわしかった。

一旦本家に戻って、父斉興のもとで軍政改革にあたり、藩政に参与した後、

滑稽+人情本 1835＝18歳： 重富島津家の養子となり、

大塩平八郎乱1837＝20歳：

蚕社の獄・ ・ 1839＝22歳：その家督を相続。

天保改革終・ 1844＝27歳：

阿部正弘首座1845＝28歳：

尊徳報徳論・ 1851＝34歳： 斉興の後嗣をめぐって藩内が対立、いわゆる〈お由良騒動〉(高崎くずれ)が起こるが、斉彬に敗れる。

ペリー来航・ 1853＝36歳：

安政の大獄・ 1859＝42歳： 斉彬の死後、遺命によって久光の子忠義が藩主となったことから、本家に戻り、

桜田門外変・ 1860＝43歳：

遣欧使節・ ・ 1861＝44歳： *〈国父〉の尊称をうけ、藩政の実権をにぎる。

生麦事件・ ・ 1862＝45歳： 自ら薩摩藩兵1千余人を率いて上洛して国事周旋にあたる一方、伏見の寺田屋で薩摩藩尊攘派の志士を弾圧。ついで公武合体運動を推進するため、勅使大原重徳' 撃を奉じて江戸に入り、勅旨の形をとって自らの幕政改革案を幕府に認めさせ、一橋慶喜を將軍後見職、松平慶永を政事総裁職に任じて改革を実施させた。江戸から京都への帰途、生麦事件をひきおこす。その後、京都をめぐる尊攘運動の高まりに失望して帰藩。

8月18日政変 1863＝46歳： *〈八月十八日の政変〉後、孝明天皇の召により上洛、参預として一橋慶喜・松平慶永・山内豊信らと幕政・朝政に参加。

禁門の変・ ・ 1864＝47歳： 禁門の変で長州の兵と戦ってこれを破り、公武合体派の中心となった。

大政奉還・ ・ 1867＝50歳： *王政復古に際しては、忠義を表面に立て、自らは鹿児島に引退。

明治維新・ ・ 1868＝51歳：

廃藩置県・ ・ 1871＝54歳：

明治6年政変 1873＝56歳：新政府が征韓論で弱体化したため、勅使が遣わされて上京し、左大臣に就任したが、

洋服を禁止するなど極端な保守的性格のため重用されず、

三つの反乱・ 1876＝59歳：郷里に帰る。

西南戦争・ ・ 1877＝60歳：西南戦争では中立を守り、

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝63歳：

明治14年政変1881＝64歳：

秩父事件・ ・ 1884＝67歳：公爵。

国民之友始・ 1887＝70歳： 没した。